

ライジングSUN

2013年 6月号

特定非営利活動法人 SUN

TEL 03-3712-0653 FAX 03-3791-6076

<http://sun1991.net>

江口さんのマイストーリー 第3回

(江口賢次さんは昨年3月に惜しくも他界されましたが、SUNのホームページで「マイストーリー」を見たご家族が、SUNを訪ねて来てくださいました。ずっとお父様を探されていたそうです。私たちの活動が役に立ち、うれしく思っています。)



本格的に飲み出す 結核になる

聞き手：飲酒のお話を聞きたいんですけども、何歳ぐらいから毎日飲むようになったんですか。

江口賢次：うーんと、大日本印刷だな。25歳のときに。3直2交代で、昼・昼・昼、夜・夜。で、休み・休み。

聞き手：不規則勤務って、結構きついんですよね。

江口：そう。で、朝帰ってくるわけじゃない。

聞き手：眠れないですもんね、あまり。

江口：家へ帰って、ビールの小瓶を飲む、それで寝てたから。

横浜の大日本印刷に、5年か6年いたのか。そのときからもう、おかしかつたらうな。でも、仕事は休まず行っているんだから、やっぱり普通だよな。普通の、うまくやっていた。

聞き手：健康状態が、いろんな意味で、ちょっと問題があると言われたり、あるいは自覚したりしたのは。

江口：ない。その頃はね、まだ若い時だから。

聞き手：アルコール依存症と診断されたのは、いくつのときですか。

江口：いくつだ？…一番最初に病院入ったのは、長谷川病院だからな。

いや、長谷川じゃない。42歳のとき、結核やったの。

それで、小原療養所っていう、群馬県の前橋の方にあった療養所に入院した。その頃、俺は一人だったからさ。



聞き手：一人？離婚した？

江口：離婚した。その前からおかしいなとは思っていたんだけど。でも、自覚がないわけじゃない。まさか酒で、って。

結核やって、療養所の中でも酒かっくらってた。小原療養所のワーカーさんが「あなたはとてもお酒に問題がある」って。自分は分かってねえわけだよ。療養所に1年間いて、タバコはうるさかったけど、酒はさ。俺は金がないから、金を持っているやつが皆おごってくれるんだ。それで、何回始末書を書かされたか、3回は覚えてる。

聞き手：じゃあ、もうここからはお酒による弊害というか、不都合な部分が出てきていたわけですよね。

自省館入所 AAとの出会い 再飲酒

江口：そこから、ワーカーさんが何だか知らないけど、自省館という所を知っていた。

聞き手：42歳で自省館ですか。

江口：そうそう。自省館に3か月はいたかな。結核はもう治ってピンピンして、体は頑丈だし。酒に問題あると思ってないし（笑い）。ワーカーは問題があるって言うけど、「こんな所、いる必要性がない。俺は仕事やるんだ」と。

それで、自省館のプログラムを縫って、富士見台の三映印刷っていう所に、一人で面接行った。「結核が治って、今療養しているところだ」と、自省館の住所を書いて、だけどアルコール依存症とは言わないわけだ。そうしたら受かって。

聞き手：それで受かっちゃったんだ（笑い）。

江口：俺調子良いから、本当に。面接ではねられたことない（笑い）。そこでね、自省館からAAって、必ず行かされるじゃない。絶対に、どんなことをしても。で、初めてAAに行ったのが清瀬の教会だった。

聞き手：受かった三映印刷はどうしたんですか、行ってたんですか？

江口：だから、自省館を勝手に退館するわけだ。出るときに館長に言われた。「江口さん、仕事やるのは結構だけど、あなた、今度酒で問題起こしたら、必ず精神病院入ります」馬鹿野郎、そんなところ入るわけねえじゃん、って。

そして富士見台の三映印刷で、寮があって、部屋があって。飯は自分で食ってたのか。清瀬の自省館から富士見台って、近いじゃん。館の仲間が遊びに来てたよ。あいつも、面倒見たなあ。最後は俺の貯金通帳から、3万くらい引き抜いて。死んじゃったけどね。

聞き手：三映印刷はどのくらい勤めたんですか？

江口：えーと、6月に入って、1月にはもうパンク(クビ)になってたな。

聞き手：7か月ですか。

江口：だって、金が有り余っちゃうんだもの。(月収) 35万かな。

聞き手：飲むしかないですね(笑い)。毎日、もちろん飲んでいたわけですよ。

江口：そうそう。もう自省館は関係ないからね(笑い)。

毎週、3万円ずつ下ろしたのかな。そうすると必然的に、お金が溜まるじゃない。だから、金が残っちゃったわけ。200万残っちゃった。

聞き手：その200万円は、どういうふうに使ったんですか。

江口：それが問題なの。「ピーターパン」とか、映画の券をうちで印刷していたんだよ、カラーでさ。あと、東映のカレンダーだとか。だから、余った券をくれるんだよ。で、金があるから娘に電話して、そのときはまだ連絡できた。「お前ら、『ピーターパン』が見たいんなら来い」って言って、次女と三女とを連れて行ったよ。新宿のコマ劇場。そのときも飲んで歩いたな、ビール片手に。



聞き手：このときには、奥さんとはもう、関係はなかったわけですか。

江口：ないね。かあちゃんか。

離婚のいきさつ マッサージ師で稼ぐ

聞き手：なんで離婚しちゃったの？

江口：そのときはもう、俺、幻覚見てたんだよ。

聞き手：アルコールの。

江口：うん。それは、三郷の団地にいるときだ。金町で働いてたよ。そこも給料が良かったんだよな。だから、少し生活に余裕っていうのはあるけども、小遣いがほしいとか、そういうのだろうな。酒に変わっちゃうんだもん。

聞き手：奥さんは、専業主婦？

江口：最後はあいつ、食えないからどっかで手伝ってたな。元はパーマ屋だったからね。髪結いの亭主はろくなのがいないって言うけど、本当だな（笑い）。

聞き手：でも、江口さんの場合は自分で働いていたわけですよね。どうやって使うかは別として、収入はあったわけで（笑い）。

江口：一緒になったとき、大日本印刷を辞めて、もう行くところがない。それで、サウナの従業員になった。ぶらぶらしてるのは嫌だから。そこでマッサージを覚えた。技術だったからね、あれも。で、7年間、親子5人で暮らした。



聞き手：いろいろな仕事をやったんですね。

江口：うん。女性専門のマッサージ師だった。女は（料金が）上、男は下。上手いからさ、指名がよく入った。帰りがけ、女の人が待ってたし。

聞き手：それが離婚の原因ですか。

江口：いやいや、それは違うけど、よく飲み連れて行ってもらった。客の女性が、だいたい水商売だもん。あと、トルコのお姉ちゃん（笑い）。

「うち来て、やってちょうだい」って。旦那が横にいて、終わると「おう、ご苦労さん」って、ビールと、いろいろなものが出てくるんだ。それが楽しみで。料金が普通、2千5百円だった。出張費として5百円上乗せして、3千円でやってたんだけど、その家に行くと5千円くれる。魅力だよな。だから、ちゃんとした仕事だよ。ロコミで「あの人は上手い」というのが伝わって、結構出張マッサージで稼いでいた。

聞き手：もてたんですね（笑い）。

江口：だから、これ（腕）だよ。マッサージだけだよ。俺、話し方って、いつも優しくそうじゃん。だから安心するみたい。最後はそれも駄目だった。本当にできなくなった。

（2011年8月23日）

最近の主な活動

2012.11.28 アル施連フェスティバル

音楽教室で練習した、「ドレミの歌」等を発表しました。



2012.12.18 クリスマス会

2013.1.28 初詣（鎌倉）

2013.3.26 一日外出（八景島シーパラダイス）

2013.4.23 一日外出(羽田空港見学)

「リサイクルショップSUN」が4月に開店しました

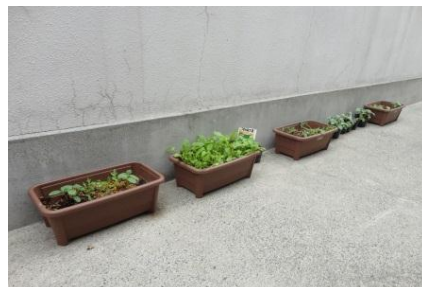
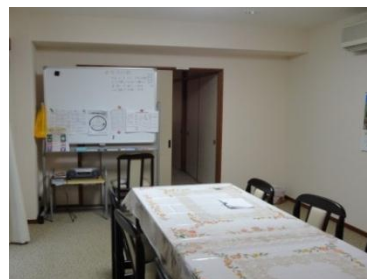


SUNが運営するリサイクルショップです。衣類・雑貨・食器・身の回り品等
を無償提供していただき、値付け・陳列・接客販売を皆で行っています。

収益金は、社会復帰訓練のために活用させていただきます。

2013年5月から、自立訓練(生活訓練)事業を開始しました

断酒間もない仲間たちが、飲まずに規則正しい生活を維持することを目指しています。



花や野菜を育てたり、手芸を楽しんだりして、アットホームな雰囲気の中で活動しています。

今後の主な予定

6月26日(水)

アル施連ソフトバレーボール大会



SUN 活動報告会のお知らせ

日時 平成25年7月20日（土）
午前11時～午後2時

会場 目黒区役所 2階 大会議室

内容 活動事業報告
アルコール依存に関する意識調査報告
グループ活動（歌唱）発表等



アルコール等依存症からの回復には、同じ病気から回復したいと悩んでいる人達との交流、グループが必要です。

SUN プログラムでは健康な生活や習慣を取り戻すために、ミーティングやグループ作業等が組み立てられています。

地域社会に戻れる生活の基礎作りと、生活習慣の回復を目指します。

特定非営利活動法人 SUN

TEL 03-0712-0653

9:00AM～4:00PM

〒152-0001 東京都目黒区中央町2-32-5

スマイルプラザ中央町4F（旧第六中学校）

東急東横線 学芸大学駅下車 徒歩7分

東急バス 五本木バス停 徒歩8分